

やけにせらるゝ日の來らん事を熱望して居つた。此の希望は遂に満たされて先程「西域考古圖譜」なる名で國華社から發行せられた。上下二卷に別れた大冊であつて、發掘品中重要なるものを選択して精緻を極めた木版玻璃版を以て複製したものである。此の選擇には京都文科大學の教官諸氏と東京文科大學の瀧教授とが、それら専門の學科によつて當られたもので、上卷には繪畫、彫刻、染織刺繡、古錢、雜品、印度彫刻、下卷には佛典史料、經籍、西域語文書、印本を收め、每紙題名ヘッディングが附してある。此の探檢事業を計畫され、また自からもこれに従事せられた大谷光瑞師の序文によると、此等の資料を研究し選擇の任に當られた「諸氏が調査の詳細なるものに至りては別に之を公にするの日あるべしと雖、今茲には諸氏が調査の結果選定せるもの六百九十餘種を集めて之を複製」して印行するに至つたとのことである。我等は此の資料とともに研究の發表を熱望して居つたので、これを他日に期せられたについては少からず遺憾の念を禁じ得ないのであるが、しかしかゝる研究は僅少の歲月で成就し得られるものでもあるまいし、また急げるが爲めに却つて誤りを生ずることも少くあるまいから差し當り此の圖譜文けの刊行で一部の望みを満足させねばならぬことであらう、我等の期待する此の「他日」は、かゝる貴重な資料を提供して、廣く世界の學者の研究に委ねられた寛容なる學者諸氏が、其名譽の上からしても必らず近い中に實現せしめらるゝことであらうと信じて疑はない、既に此の中の一部のものは研究の結果が發表せられ、圖譜中にも慘憺たる苦心の跡を歴々として窺ふに足るべき説明の附せられて居るものもあつて、我が學界の爲に心強さを感じると共に、我等はこれに對して滿腔の謝意を表するものである。

今此の圖譜の中で最も注意すべきものと思ふものを摘記して見ると